

第 74 回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー 「各種病態におけるショックの診断と治療」

年次テーマ：ショック

患者の予後を改善することは、抗菌薬適正使用の重要な目的のひとつです。この目的を達成するためには、原因微生物に有効な抗菌薬を選択し、適切な投与量、投与方法で、できるだけ速やかに投与を開始することが推奨されます。抗菌薬を選択する際には、患者背景を把握し、症状や身体所見、画像検査などから感染巣を確認し、患者背景や感染巣、迅速検査などの結果から原因微生物を推定して初期治療を開始することが多いと思いますし、必要不可欠な過程だと思います。発熱性好中球減少症のような特殊な状況を除けば、「発熱があるから」、「炎症反応が高いから」といって抗菌薬を開始することは避けなければなりません。

外来や院内でショックに至った患者の対応をすることがありますが、特に敗血症性ショックでは迅速に適切な抗菌薬の投与を開始することが求められます。ところが、敗血症性ショックを疑う患者の初期治療にいつも同じ抗菌薬が選択されていると感ずることがあります。もちろん、敗血症性ショックの原因となった感染症や原因微生物を推定した上で、同じ抗菌薬が選択されているのであれば問題ないと思いますが、いつの間にマニュアル化されていないかということには注意が必要だと思います。

第 74 回抗菌薬適正使用生涯教育セミナーは「各種病態におけるショックの診断と治療」というテーマで各論、事例検討をご講演いただきます。本セミナーではショックの原因となった感染症、あるいは併存する感染症、そして原因微生物をどのように考えて抗菌薬を選択するのかという思考過程を共有し、抗菌薬適正使用の推進にお役立ていただければ幸いです。

2025 年 5 月 10 日

公益社団法人日本化学療法学会
抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会
委員長 堀野 哲也